

# 第Ⅲ部 成果・評価・展望

1. 成果

2. 評価

3. 展望

# 1. 成果

## 1. 高校1年次におけるシナリオ・プランニング（SP）の基礎

### ①『PEST ゼミ（基礎）』

SPに必要な政治・経済・社会・科学技術の各分野について、網羅的にかつ、基礎的な知識の習得と分析力の開発を目的とした。

教員も生徒も苦労しつつ、P, E, S, Tそれぞれについてそれなりの形を作ることが出来た。

試行錯誤を経て、2年目に修正を加えつつも「教材化」する基礎ができた。

### ②『GE』

英語による発表や討論など、SGH事業の各場面で英語を活用できる力を付けることが目的である。

また、日本文化に対する知識を深め、世界から注目されている日本の持つ諸問題について情報を収集させるとともに、問題に対する考察力を養うことも目的とした。

中間発表会において、英語による授業内容の発表や司会進行、ディベート活動などを行った。

まだまだ十分とは言えないながらも、英語で相談をしたり、ディスカッションをしたり、あるいは発表を行うことに多少慣れてきたようである。

### ③『PIT』

情報処理能力向上を目的とする。

生徒個々の努力に依存する部分が多く、十分に時間を取った指導は難しかったが、コンピューターを用いた情報処理技術の習得はある程度なされたと言えるであろう。

## 2. 講演会・特別授業

講演会・特別授業は、その時期における生徒の状況を鑑み、効果的な知識・技能・考え方の習得に資することが多かった。

今後の課題は、それぞれの講演会や特別授業をいかに関連付け、より効果の高い活動の構築を図ることである。

## 3. フィールドワーク（通常期間）

上記2と同様に、外的刺激が生徒の積極性の発露により影響を与えた。特に、一線級の研究者から直接お話を聞いたり、施設・設備や最新の研究に触れたり、あるいは、色々な国の大学生・大学院生との交流を持つことが効果的であった。

## 4. 春期国内外フィールドワーク

海外の高校生や大学生との討論・意見交換を通じて、今の自分たち足りないものを強く認識した。

1年目の生徒として試行錯誤しながら、今後継続して交流していく基盤作りができた。

特に海外コースに参加した生徒は、英語力向上の必要性を痛感したようである。

平成 27 年度（指定 1 年次）の実績

月	日	曜日	講演会 特別授業	フィールド ワーク	PEST・総合的な学習の時間					内容	
					P	E	S	T	GE		他
4										G-Mission	3 回
5	15	金	○								P
6	29	月	○								S
7	11	土		○							
7	14	火		○							
7	21	火		○							
7	23	木	○								グローバルリーダー論
9	5	土	第 1 回中間発表会								本校 SGH 事業について 生徒プレゼン
9	29	火	○								エネルギー経済
10	27	火	○								化学
11	6	金	○								琵琶湖
11	4	水								Skype	
11	27	金	○								システムデザイン思考
1	15	金	○								中国研究
2	27	土	第 2 回中間発表会								生徒プレゼン ポスター発表
3	16-19			○							筑波大学 産業技術総合研究所 JAXA つくば
3	21	月		○							近畿地区 SGH 課題研究発表会
3	17-22			○							マレーシア工科大学 St. Joseph's Institution (シンガポール)
3	17-22			○							Colegio de San Juan de Letran (フィリピン)



## 2. 評価

### 1. アンケートの結果

SGH 指定による効果の数的に顕著なものは、一部項目にのみに現れてる。

### 2. 自己評価

#### ①『PEST ゼミ（基礎）』

PEST ゼミ「教材化」の基礎ができたことは評価できる。

次年度のシナリオ・プランニング（SP）につながる基礎として十分な内容となっているかは、今後検証が必要となる。

#### ②『GE』

効果的な『GE』に向けて、工夫の余地がある。

『PEST ゼミ』との関連等も含めて、活動内容を改善する必要がある。

#### ③『PIT』

実際には、プレゼンソフト・インターネットの活用・Skype 等必要に応じて習得していく形態が効果的であり、生徒の自己習得を促す工夫が効果的であった。

#### ④講演会・特別授業、フィールド・ワーク（通常期間）

効果的な運用ができた。

本校の SGH 活動の体系の中にどう組み込んでいくかが、今後求められる。

#### ⑤春期国内外フィールド・ワーク

個々の生徒が、将来国際的に活動する際に身に付けるべき事柄を意識し、次の学習や活動につながるものとなった。

### 3. 運営指導委員会の指導助言と評価

①第2回目の発表会では、第1回目と比較してはるかに成長した姿を見ることができ、今後は楽しみである。

③今後は高校時代に異文化の中で生活する機会(海外留学など)をできるだけ多く提供できるように、学校として体制を整えていくべきであろう。



スーパー グローバル ハイスクール 目標設定シートより

上段	SGH 対象生徒
下段	SGH 対象生徒以外

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

		／年度							目標値
		25	26	27	28	29	30	31	
a	自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数(人)	—	—	9					160
		52	48	80					80
b	自主的に留学又は海外研修に行く生徒数(人)	—	—	9					120
		19	17	30					40
c	将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合(%)	—	—	72					100
			48	50					20
d	公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数(人)	—	—	2					40
		7	5	21					10
e	卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合(%)	—	—	15					100
		6	6	8					20
f	将来起業したいと思っている生徒数(人)	—	—	6					40
			29	40					20

1' 指定4年目以降に検証する成果目標

		／年度							目標値
		25	26	27	28	29	30	31	
a	国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合(%)	—	—						60
		24	26						40
b	海外大学へ進学する生徒の人数(人)	—	—						10
		0	0						5
c	SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合(%)	—	—						80
d	大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数(人)	—	—						80
									50

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）

		／年度							目標値
		25	26	27	28	29	30	31	
a	課題研究に関する国外の研修参加者数(人)	2	2	45					80
b	課題研究に関する国内の研修参加者数(人)	19	19	78					160
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数	0	0	5					10
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数（人数×回数）	0	0	22					150
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数（人数×回数）	0	0	11					50
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数(人)	6	9	0					60
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数（留学生も含む。）	8	3	3					30
h	先進校としての研究発表回数	0	0	3					10
i	外国語によるホームページの整備状況	×	×	×					○
j	産官学グローバルネットワークの構築	0	0	0					50

### 3. 展望

#### 1. シナリオ・プランニング (SP) の実施

1年次のPEST基礎の成果を受け、また春期国内外フィールド・ワークの経験を踏まえ、SPを実施する。

ここでは、SPの手法を会得することを2年次当初の目標とする。

それと同時に、PESTゼミにより高度な内容について考える力を付け、後半の具体的なSPの実施につなげる。

生徒の各グループがテーマを定めてSPを実施し、その完成と成果の発表を目指す。

#### 2. 「SGH 国際シンポジウム」構想

海外フィールドワークでつながりのできた学校やその他の機関を招待し、協働してディスカッションやプレゼンテーションを行う。

国内からもSGH校等を招待し、活動の輪を広げるきっかけとしたい。

#### 3. その他

次年度の海外フィールド・ワークにおいては協働SPの実施を目指して、その準備も行う。

SPの発信方法・教材化・協働SPの方法等、教員による研究が必要となる。

日本や世界の様々な組織（学校・自治体・企業等）とのSPの共同研究などを行い、その成果の発表発信と教材化をめざして、準備を進めるとともに、産官学各組織同士のグローバル・ネットワーク作りの手助けを行いたい。



本校 SGH 構想 3 年間の流れ

《1 年生》

第一 年次	月	PEST		その他	
	4	P 基礎 S 基礎	情報 GE	講演会 特別授業 フィールドワーク	
	5				
	6				
	7	中間発表準備			
	8	中間発表準備			
	9	<b>第 1 回中間発表会</b>			
	10	E 基礎 T 基礎	GE	講演会 特別授業 フィールドワーク	
	11				
	12				
	1	中間発表準備			
	2	中間発表準備			
	3	<b>第 2 回中間発表会</b>			



《2 年生》

第二 年次	月	PEST		その他	
	4	P 基礎 S 基礎	情報 GE	講演会 特別授業 フィールドワーク	
	5				
	6				
	7	国際シンポジウム準備			
	8	国際シンポジウム準備			
	9	<b>国際シンポジウム</b>			
	10	E 基礎 T 基礎	GE	講演会 特別授業 フィールドワーク	
	11				
	12				
	1	中間発表準備			
	2	中間発表準備			
	3	<b>中間発表会</b>			

PEST		その他
PESTゼミ SP	GE	講演会 特別授業 フィールドワーク
国際シンポジウム準備		
<b>国際シンポジウム</b>		
PESTゼミ SP	GE	講演会 特別授業 フィールドワーク
中間発表準備		
<b>中間発表会</b>		

《3 年生》

第三 年次	月	PEST		その他	
	4	P 基礎 S 基礎	情報 GE	講演会 特別授業 フィールドワーク	
	5				
	6				
	7	国際シンポジウム準備			
	8	国際シンポジウム準備			
	9	<b>国際シンポジウム</b>			
	10	E 基礎 T 基礎	GE	講演会 特別授業 フィールドワーク	
	11				
	12				
	1	中間発表準備			
	2	中間発表準備			
	3	<b>中間発表会</b>			

PEST		その他
PESTゼミ SP	GE	講演会 特別授業 フィールドワーク
国際シンポジウム準備		
<b>国際シンポジウム</b>		
PESTゼミ SP	GE	講演会 特別授業 フィールドワーク
中間発表準備		
<b>中間発表会</b>		

SP		その他
SP	GE	講演会 特別授業 フィールドワーク
課題研究発表準備		
<b>課題研究発表</b>		
論文作成・発表		